高津区おはなしアーカイブ

●小黒　久男（おぐろ　ひさお）さん
昭和１６年生まれ　７２歳
川崎市高津区諏訪在住

◆ご自身のプロフィールを

この地で生まれ、育ちました。昔、ここは橘群高津村と言いました。当時、幼稚園はこの辺にありませんでしたから、小学校からです。３年生まで高津小学校、４年生のときに東高津小学校に移りました。高津中学から県立川崎高校、東京の大学に進学、その後６５才まで出版会社に勤務しました。現在は民生委員や老人会会長などを務めています。

◆どんな子ども時代をお過ごしですか

高津小学校は当時、生徒数が多くて朝から昼までの朝番と昼からの遅番の二部制に分かれてました。小学校１年のときは１クラス６０名が８クラスだったのが、３年のときには１１クラスになってしまいました。というのも、東京の真ん中が焼け野原で、この地に住み着いた人が多かったからです。

教師自体も１７歳の旧制中学の卒業生が代用教員として学校で教えていました。私が小学校２年のときにその３人の代用教員が宿直室から夜学に通い、教職課程を取り、正規の先生になりました。生徒たちが皆、宿直室に遊びに行って楽しかったなあ。今、考えても、年齢的には、そんなに離れてないですもんね。花札やチンチロリンを教えてもらいました。悪さをすると、連帯責任で皆よく殴られましたが、先生のことが大好きで、いまだにクラス会では先生共々集まります。最近の会でも、生徒１５０人中５０人、先生もお二人が出席されました。

地元中学の友人はだいぶ引越ししてしまいました。５０人中、現在４、５人くらいしかこのあたりには住んでいません。私らの親の世代には、地元に勤め先がありましたが、その子どもたちの次男、三男は家を継げないので、自分の城を持つために皆、ここを出ていきました。横浜など田園都市線沿線に２０人、あとは柏市や市川市など千葉県に２４人が移り、東京の工場に通っていました。

高校のときの友人とは川崎のほうで遊びましたね(笑)。

◆小学校時代の遊びは

ゲームなどない時代ですから、友だちの家に遊びにいって花札やトランプは欠かせませんでした。学校では、ドッヂボールです。

外遊びは、かくれんぼ、ベーゴマ、缶けりです。仲間とよく多摩川でも遊びました。

◆多摩川の思い出は

昔の家は天井が高いですから、竹やぶから竹を取ってきて、その天井から吊るして釣竿を作りました。それに針を付けて「ころがし」という手法で鮎を獲りました。それを当時中学生だったガキ大将が、二子新地にあった遊郭に売りにいくのです。投網で獲れる鮎だけでは、お客に足りなかったのです。ガキ大将は稼いだお金を分配してくれました。当時のお小遣いが5円のときに１００円ですよ。まあ多分、そのとき大将は５００円くらいを自分で儲けていたと思いますけど(笑)。

小学校3年くらいになると、暑い時期は家にいると親から「多摩川に行ってこい！」とよく言われました。もう毎日のように行ったなあ。まだ小さくてふんどしが締められないと、上級生が手伝ってくれました。

川が増水したときは、そこを渡ることが男のステータスのような雰囲気がありましたねえ。悲しいことに、2人くらいが溺れました。私も3年生のときに溺れ、死にそうになりました。親には内緒でした。川が綺麗だったのは昭和２８年くらいまでです。中学1年のときには水が汚くて泳ぐ気がしませんでした。

◆小黒家の歴史を

小黒家の先祖は諏訪左近頼親(よりちか)と言われてます。元々は諏訪馬のすけ(うまのすけ)が小田原北条氏の家臣で有名でしたが、一族が彼を頼って鶴見区にあった寺尾の小黒という地名に兄弟で住んだと言われています。この頼親(よりちか)の長男が小黒伝八で、次男が材木屋でした。江戸時代に材木屋から分家して、私の父がこの家の養子に入りました。

◆どんなご家族でしたか

大正4年生まれの父は、ほとんど人生を戦争で費やし、生き抜いた感じです。近衛兵として入隊、終戦のときに下士官で帰ってきました。敵と戦った話はしませんでしたが、戦地で猿を飼ったことやイギリスのウイスキーが美味しかったことなどを話してくれました。　戦後は、「日通工」に勤務しました。

母は、東京の女子校出身で、お嬢様のような感じでしたが、体が弱かったです。私が4歳のときに母と防空壕に逃げた記憶は鮮明です。真っ赤な焼夷弾の色は強烈でした。か弱い母が父の帰りを待ちながら、子どもを育てたのは大変だったと思います。

私の兄弟は、妹2人と弟1人の全部で4人で、全員が県立川崎高校出身です。私は、長男として厳しく育てられました。家族旅行の経験はありません。４０年前までは、何百年も経った家屋の居間で、家族でちゃぶ台で食事をしていました。その家は現在住んでるこの家の隣りで、父が亡くなると相続税の関係で川崎市に買い上げてもらい、現在高齢者施設になっています。

１０年前までは、屋号が「菓子屋」と言いました。江戸時代の自給自足の時代に、甘いものを売るということは、現金が入りやすかったのです。昭和5年くらいまで、川崎大師にお菓子を卸していました。2代前の家には、飴切り包丁などが残っていて、飴職人も来ていたそうです。二子と武蔵小杉の法政通りに昭和の終わりまで小黒家が関係した「オータニのアメヤ」がありました。当時

の屋号は、その他にも「傘屋」「桶屋」「樽屋」「瓦屋」など、商売に応じてありました。

◆当時の町の様子は

昭和４０年頃までは、二子新地、高津、諏訪側の消防署のほうは梨畑でした。今の二子新地駅前のメインストリートは人が１人通れるだけの道幅でリヤカーも無理でした。高津石油のところもあぜ道でした。桃畑は、多摩川と諏訪の後ろ側までありました。地元の子は、畑から傷ものの果物はもらえたので、あえて失敬はしませんでしたねえ。柿やビワもふんだんになっていたので、これはかってに捥いで食べてました。この辺も柿の木が２０本以上立ってましたが、商売にもしてませんでした。父の作る渋柿の焼酎漬けはとても美味しかったです。

戦前は綺麗な果実園の景色でしたが、戦後は果物ではお金にならないので、サツマイモや麦畑にしました。

主に農耕地は今の玉川高島屋デパートのある諏訪地域でした。空襲では、爆撃機の爆弾が冬の風に乗り、北見方の畑が焼けました。

畑が少なくなってきた原因としては、やはり２８年前くらいから相続税が大変になってきたからだと思います。

◆当時の人々の暮らしぶりは

当時の屋根はかやぶきでしたが、かやがなくなると、トタンを張り、その上にコールタールを塗りました。今で言う有害物質ですよね。

台所は土間で、中学生になってガスが引かれるまでかまどで調理しました。井戸は、つるべ落し式ではなく、外でもポンプ式でした。その井戸にトイを付けて甕に水を溜めておき、この水で料理や洗濯をしました。洗濯は風呂場です。風呂は五右衛門風呂ではなく、普通の風呂桶でした。昭和２３年に水道が引かれました。

この家の地面下は「日通工」の防空壕です。戦後は、「日通工」には２万人くらいの人が働いていました。高津中学跡地がメッキ工場で、貸家を建てて人を集めました。

当時は、子どものお使いというと米屋くらいでした。１軒だけある米屋にヤミ米を買いに行かされました。肉や魚などの食材は三輪車で行商人が売りに来ました。私の小さい頃は、川崎からワタリガニなど海のものも売りに来てましたっけ。

◆季節行事の思い出は

なんと言っても、夏祭りです。昔は、二子、北見方、坂戸などの祭りは、たくさん遊べるように祭りの開催日が全部違っていました。大人も子どもも本当に楽しめました。祭りが行われている地域の親戚の家に行って、天ぷらやお赤飯のご馳走を食べるのが嬉しくてね。

祭りの食べ物は、綿菓子、水あめなどで、遊びは金魚すくい、射的、火薬の入ったピストル撃ち、何かを投げて賞品を落とした屋台のことが忘れられません。

でもお祭りの悔しい思い出もあるのです。大人がお祭りに連れていってくれても、下の妹や弟たちは何か買ってもらえるのですが、長男の私だけ何も買ってもらえなかったことです(笑)。

現在のお祭りでは、諏訪神社がすごく盛り上がってますよ。青年部が一生懸命に活躍しています。子どもを戦力にすると、親が遊びに来てくれますし。大人御輿１５０人、子ども御輿が１００人と

なり、とにかく飲み物の準備が大変で、特に子どものための工夫は必要だと思います。

あと、お正月ですが、家にお守りやお飾りを付けるくらいで夏祭りほど、印象はありません。でも、この日は美味しいものが食べられました。父が鶏を絞め、それでお雑煮を作ってくれました。何たって、放し飼いの鶏ですから、そのダシたるや絶品でしたね。鶏で商売はしてませんでしたが、自宅で卵は食べてました。諏訪や久地、北見方に当時、養鶏場はありましたが、昭和３０年代に規模を拡大するため千葉へ移っていきました。

（平成２５年１１月２７日）